

2020年7月15日

様
「20人学級」で子どもたちのいのちと健康を守り、
豊かな成長・発達を保障してください

全日本教職員組合

中央執行委員長 小畑雅子

埼玉県教職員組合

執行委員長 北村純一

連絡先 048-824-2511

新型コロナウイルス感染拡大が収束しない状況のもとで、埼玉県を含め全国各地の学校が再開されました。現行の40人を上限とする学級では「3密」を避けることはできません。現在、再び感染が大きく拡大する中で、40人学級での教育活動は大きなリスクを抱えています。これからの学校の1学級の定員については40人学級を解消し「20人学級」を展望した少人数学級をすすめることは必然の流れです。

臨時休業中や学校再開直後の一時期には、分散登校など教室に入る子どもの数を2分の1以下にする措置がとられ、「いつもより勉強がよくわかった」「積極的に質問や発言ができた」など、子どもたちから肯定的に受け止める声が上がっています。その後、40人学級に戻された学校からは、近づくことやおしゃべりすることを最小限にとどめられ、前を向いて黙って食べる給食はあまり美味しくないなどの率直な声が聞かれます。教職員にとっても、2分の1以下で授業したときはゆとりがあり子ども一人ひとりと向き合うことができたのに、40人に戻ったらそれが難しくなりました。そもそも40人ではゆきとどいた教育を行うことに無理があったことが「コロナ」によって明らかになったのではないのでしょうか。子どもたちのいのちと健康を守り、豊かな成長・発達を保障するため、これからの学校の1学級の定員については、「20人学級」を展望した少人数学級こそ必要です。当面、緊急に少人数での授業を可能とする教職員を配置し、空き教室や空き校舎を積極的に活用して「身体的距離の確保」を行うことが求められます。特に、特別支援学校・学級の過大で過密な状況は感染リスクの高い障害児にとって命にかかわる重大な問題です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため我慢を重ねてきた子どもたちに安心・安全な学校生活を送ってもらえるよう、増やした教職員や教室・校舎を維持・活用して、子どもたちにゆきとどいた教育条件のもとで学べる学校教育をプレゼントすることが国の努めではないのでしょうか。

子どもと教育を「コロナ」から守るために、下記について推進していただきますようお願いいたします。

可能であるならば、貴議員様と埼教組役員と懇談できる場の設定いただけると、大変ありがたく思います。ご検討いただければ幸いです。

記

1. 20人程度での授業など少人数授業を実施することができるよう、緊急に教職員を増やしてください。
2. 必要な教室の確保や学習指導員やスクール・サポート・スタッフ、ICTアドバイザーを配置してください。
3. 今後を展望して、教職員定数の抜本的改善をおこない、小・中学校のすべての学年で「20人学級」を実現してください。
4. 特別支援学校・学級の過大・過密を解消するために、特別支援学校には設置基準の策定を、特別支援学級には定員を6名に引き下げてください。